

## 入札心得書

### (遵守規定)

第1条 入札後審査型条件付一般競争入札に参加を希望する者は、契約締結に関する法令及び古賀市財務規則並びにこの入札心得書を遵守しなければならない。

### (入札の取りやめ等)

第2条 入札参加者が連合し、又は不穩の行動をなす等の場合において、入札を公正に執行することができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し、若しくは取りやめることがある。

### (入札の無効)

第3条 次の事項に該当する場合は、その者の入札を無効とする。

- (1)競争に参加する資格を有しない者が入札した場合
- (2)指定した郵送方法以外で入札書を提出した場合
- (3)入札書、工事費内訳書、送付用封筒(以下、「入札書等」という。)に入札件名等の必要事項が記載されていない場合
- (4)入札書及び工事費内訳書に押印を欠く場合
- (5)送付用封筒が封印されていない場合
- (6)同一事項の入札について、二以上の入札書を提出した場合
- (7)入札書等の記載事項が不明な場合(誤字・脱字は1字でも無効となります。誤字の訂正をする場合は、誤った箇所を二重線で消し、入札書に押印した印と同じ印で訂正印を押し、正しい文字を記載してください。修正液・修正テープ等での訂正は認められません。)
- (8)入札書の金額を訂正した場合(工事費内訳書の記載事項を訂正する場合は、上記の訂正方法に限り認めます。)
- (9)談合その他の不正行為による入札と認められた場合
- (10)工事の入札において、工事費内訳書の提出を欠いた場合
- (11)その他入札に関する条件に違反した場合

### (入札に関する事項)

第4条 入札は、あらかじめ公告で規定する方法で行う。

- 2 設計図書等についての質疑は、公告で示す方法により所定の日時までに行わなければならない。
- 3 入札書の金額欄には、積算した契約希望金額(税込額)の110分の100に相当する金額を記載するものとする。ただし、金額の記載方法について特に指定する場合はこの限りでない。

- 4 工事の入札にあつては、工事内訳書を入札書と一緒に提出しなければならない。
- 5 設計図書等の他への転用は、禁止する。

(入札の辞退)

第5条 入札書発送後に入札を辞退することを希望する場合は、開札日の前日までに入札辞退届を古賀市 総務部 管財課 契約係 まで提出しなければならない。

2 前項により入札辞退届が提出された入札は、あらかじめ入札が無かったものとみなす。

3 入札を辞退した者は、これを理由として以後の指名等について不利益な取扱いを受けるものではない。

(落札候補者の決定)

第6条 落札候補者は、有効な金額範囲の入札者のうち、最低金額の入札者とし、以下、金額の低い順に順位を決定する。なお、落札候補者となるべき同額の入札者が2者以上のときは、「くじ」により順位を決定する。

(競争入札参加資格確認審査)

第7条 競争入札参加資格確認審査の結果、落札候補者が競争入札参加資格を満たしていることが確認された場合は落札を決定し、契約締結に必要な書類の提出を求める。落札候補者が、競争入札参加資格を満たしていないとされた場合は、次順位の者を落札候補者とし、適格者ができるまで審査を行う。

(異議の申立)

第8条 入札者は、質疑受付期間終了後、この入札説明書及び設計図書等についての不明を理由として異議を申立てることはできない。

(契約保証金)

第9条 契約保証金は、契約金額の100分の10以上の額とする。銀行等の金融機関若しくは保証事業会社の保証をもって契約保証金とする。また、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合も同様とする。

(契約の締結)

第10条 契約の締結は、原則として落札者決定の日の翌日から7日以内に契約を締結しなければならない。ただし、市長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

2 議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例(昭和39年  
条例第6号)に基づき議会の議決を必要とする契約については、前項に規定する  
期間内に仮契約を締結し、議会の議決をもって本契約の成立とする。

(暴力団等排除)

第11条 予定価格が1億円以上等の市が指定する工事は、暴力団等排除の観点か  
ら、契約後に提出された施工体系図等の書類を福岡県粕屋警察署に提供する。